ポプラ通中央緑地（札幌市）

広場では、幼稚園や保育園からやってくる子供たちでいつも賑わっている

役割を変えながら地域のシンボルとなっている防風林

新琴似地区と屯田地区の間に細長く横たわっている緑地は、もともとこの地域の開拓に入った屯田兵が、耕地を守るために伐り残した防風林を起源としている。自生していたハルニレやヤチダモなどに加え、大正時代には大量のポプラが植えられ、防風効果を高めるためにヨーロッパトウヒなども植林されている。

周辺の住宅地化が進んできたことから、くつろぎや癒しを与える保健機能を強化し、野生生物との共存を目指した歩行者空間づくりを行うため、札幌市が国有地を買収して「ポプラ通中央緑地」の整備が進められた。

これまでも子供たちが巣箱をかけたり、コンサートを開いたり、この空間を活用していたが、緑地整備後は両地区の有志が「ポプラ通りを守る会」を結成し、行政との協働によって自生植物の保全や外来種の除去、自然観察会の実施など活発な活動を続けている。単なる緑地に留まらず、人と自然の共生を考える空間として活用していることが高く評価できる。

定期的に自然観察会が開かれ、植物への理解を深めている

概　要

名　　称	ポプラ通中央緑地
所 在 地	札幌市北区新琴似・屯田
管 理 者	札幌市
規　　模	幅員 30～65 m、延長 2,150 m、面積 105,000㎡
種 別 等	道路緑地
開 設 年	明治中期に屯田兵が自然林を残した防風林を起源とする
整 備 年	1998（平成 10）年

防風・保健保安林、ポプラ通風致地区等に指定
手づくり郷土賞、札幌市都市景観賞等を受賞

防風林を代表するオオウバユリの群落

公益社団法人日本造園学会北海道支部
Hokkaido Branch,Japanese Institute of Landscape Architecture